

嶋上郡衙跡(国史跡)(高槻市清福寺町・郡家新町・川西町一丁目他)

高槻・島本は古代の摂津国嶋上郡にあたり、ここを治めるために置かれた郡役所が、嶋上郡衙です。都や国の役所にならって、儀式の場・庁院（ちょういん）や税を納める正倉などが整えられていました。

庁院の西側には郡寺（芥川廃寺）、北に位置する式内社・阿久刀（あく）神社周辺には嶋上郡の郡司（長官）一族の住まいがありました。また山陽道をはさんで西方の郡家今城遺跡、南方の津之江南遺跡は、郡衙と盛衰をともにした遺跡と考えられています

嶋上郡衙跡周辺では、ここ 35 年ほどの間に約 300 か所近くで発掘調査が行われ、たくさんの建物や倉庫、道路などがみつかります。なかでも、直径 40 センチメートルを超える庁院回廊の柱や、径 1.2 メートルの大木をくりぬいた厨（くりや）の井戸枠、石組井戸から出土した「上郡」の墨書土器は、嶋上郡衙の存在を確かなものにした重要な発見です。まじないに使った墨書土器や銅銭なども出土しています。

山陽道の北側に郡役所、その西側に郡寺や倉庫群が建ち並び、嶋上郡の政治・経済の中心だったと考えられています。

史跡の中心部にあたる川西小学校北西側の一面には、庁院を 3 分の 1 の大きさと、平面表示しています。

高槻市 街にぎわい部 文化財課による

